

第20回

原爆回展

展示期間 2024年8月5日(月)～8月8日(木) 文京シビックセンター 1階 展示室2
展示内容 原爆の図 「虹」「少年少女」(原寸大レプリカ)
特別企画 未就学から高校生の「ハガキ平和アート・メッセージ展」(文京区平和宣言45周年・
非核平和都市宣言41周年記念)
被爆者の証言映像、「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」展示、他関連図書

1945年8月6日と8月9日、広島と長崎に投下された二発の原子爆弾は15万人の死傷者を出し、二つの都市を全滅させました。原爆投下後の広島を目の当たりにした丸木位里、丸木俊夫妻はアメリカ占領下で殆ど原爆の報道が許されず、写真も数枚しか残されていない状況のなかで、自分たちの見た地獄のような光景を絵にして世界に訴えようと決意しました。

第四部 「虹」

全裸のからだに軍靴と剣だけをつけた兵隊。手を折り、足をつぶした若い兵隊。病兵は、破れた皮膚に毛布をかぶって逃げまどいました。音ひとつない、シーンと水を打ったような時間。気の狂った兵隊が天をさして、「飛行機だ、B29だ」と叫びつづける。どこにも飛行機の影はないのです。傷ついた馬が、狂った馬たちがあばれまわるのでした。



第五部 「少年少女」

流れに沿い、頭を並べて水をしたい、そうして累々とつらなり死んでおりました。末期の水は、川辺までたどりついてもまだずっと下の方でしたから、水ものまずに息を引きとったのです。おとなたちの建物疎開の手伝いに子どもたちが動員されたのです。一クラス全滅、というクラスがたくさんあります。かわり果てた姿で抱きあっている姉と妹。からだにかすり傷一つないのに死んでいった少女もあります。



原爆の図展はこれまで(株)リコー社会貢献クラブ、(株)オラクル有志の会ボランティア基金、文京区社会福祉協議会、文京区建設業協会、東京平和運動センター、東京福祉・まちづくりネット、i女性会議文京支部などの団体・企業よりご協賛頂いています。